

# 緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

ソフトの面での協力を強化 .....	P 2
夏の思い出 (チコロナイ) .....	P 4
黄土高原夏のワーキングツアー .....	P 6



マツ苗の根の伸び方を調べる遠田宏先生 (右) と地球環境林センターの郭さん (左)

GENに参加するには

- 会員・会報購読者になる
- 自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ワーキングツアーに参加する
- ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- 使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc.

あなたのご参加を待っています!

1996・9

49

# ソフトの面での協力を強化

## 困難のりこえ、強まる一体化

黄土高原での緑化協力も5年めを迎え、発展を主流としながらも、新たな困難がでてきました。

大同県・徐町郷は早くから協力をはじめた拠点で、94年春に植えたアンズが昨年夏まで順調に生育し、花までつけていたのに、ことしの夏はかなり枯れこんでいます。管理が不十分で、野ウサギや虫の害が多発したためです。しかも生き残った苗のかなりの部分が、接ぎ穂が枯れ、台木の芽が伸びたニセ苗でした。いま中国ではなにによらずニセモノが大流行ですが、私たちがそれをつかまされていたのです。この郷はいわば優等生のプロジェクトだっただけに、ショックでした。

霊丘県・鍋帽山のモンゴルマツも、山の下の方はいいのですが、上のほうで枯れるものがでてきました。ネズミの害もありますが、原因不明のものもあります。この人たちは管理に熱心で、枯れたもの、枯れかけたものはしっかり補植してあります。

植えた場所の地形や土壌、その年の雨量など、自然条件によって差がでますが、それ以上に人間の要素、管理の善し悪しに大きく左右されます。

管理の改善強化にはカウンターパート「緑色地球ネットワーク大同事務所」の役割が重要です。専従6人の定員が昨年夏、

市政府に承認されたのですが、市全体の行政改革にまきこまれ、臨時のメンバーで動かしていました。その弱点がでてしまったのです。この秋までに技術者を含め数名を新規採用することを決め、独立の事務所も確保しました。

もうひとつの核となる地球環境林センターは順調に整備がすすんでいます。春までは更地だったところにアンズやナシなどの苗木がりっぱに育ち、トウモロコシ、ジャガイモなどの新品種が試験栽培されています。灌漑施設も整いました。



地球環境林センター

この若い技術者と3週間あまり行動をとにしたのですが、なかなか熱心で有能な人材で、期待がもてると思います。

このセンターの整備のために、外務省草の根無償資金協力の助成およそ10万ドルが決まり、8月19日に大同で調

印式がおこなわれました。管理棟や実験室の整備、温室・ビニールハウス・堆肥舎の建設、トラックの購入など、懸案を解決できます。

これまでの5年間、私たちの協力の中心は資金面でのものでした。しかし今後は技術や人材育成といったソフトの分野を強化する必要があります。そのために不可欠な日本の専門家たちの協力もしたいに広がり、解決すべき課題もしたいに明確化しています。地球環境林センターはその拠点として役割をますことでしょう。

任務が大きくなり、問題もでてきたため、大同事務所の祁学峰所長などは、「いちばん困難な時期だ」とくりかえします。私もそう思います。でもこれまでだって、つぎつぎにでてくる問題をバネにしながら協力を強化してきたというのが実際でした。新しくでてきた問題をつうじて、中国の農村について認識を深め、それを解決するための努力をつうじて、私たちの一体化がこのかん急速にすすんだことを私は確信しています。

誤解を避けるためつけ加えますが、大同県のモンゴルマツ、陽高県のアンズなど活着率90%以上をはじめ、うまくいっているところもたくさんあります。(高見邦雄)

## 第3回会員総会のお知らせ

～総会にむけて会員の拡大を！～

緑の地球ネットワーク第3回会員総会が次のように決まりました。柴谷篤弘さん(元京都精華大学学長)の記念講演をあわせておこないます。できるだけたくさんの会員の方に参加いただけるよう希望しています。

日時: 11月30日(土) 13時～17時

場所: エルおおさか

くわしいご案内はあらためてさしあげます。

会員拡大にご協力ください!

総会までに、会員500人をめざしています。大同の地球環境林センターがいよいよ動きだし、資金面だけでなく技術などソフト面での協力がはじまります。ひろがる協力活動をささえるために、よりたくさんの方の協力をもとめています。500人まであと50人! 協力の輪をひろげましょう!

## 日本童謡の会近畿本部 ふれあいコンサート



94年からご協力いただいている日本童謡の会近畿本部ふれあいコンサートが8月10日に開かれました。多数の参加者のみなさんが去年にひきつづいて使用済みカードをご持参くださり、テレカが4,144枚、その他のカードが約500枚集まりました。ありがとうございました。



## 関東ブランチ 秋の活動予定

会報で『緑の中国』を連載中の上田信先生が、同タイトルの講座をはじめます。黄河の水が澄んでいたころから、“黄河断流”が報じられる現代まで、中国の森林の変遷をたどります。

講座『緑の中国』第1回

『中国古代の森 - 詩経・楚辞の世界』

日時：10月5日（土）15時～18時

場所：立教大学

講師：上田信（立教大学助教授）

お問い合わせ・お申込みは：上田信  
（TEL./FAX. 03-3838-1695、E-mail  
GFA06526@niftyserve.or.jp）

また、GENの活動や環境問題についてももっとつっこんだ話がしたい、という学生たちの声にこたえて、合宿を企画中です。もちろん、学生さん以外の参加も大歓迎！

合宿『秋の黄土高原ワーキングツアー  
報告会』

日時：10月26日（土）27日（日）  
（予定）

場所：青梅青年の家（予定）

お問い合わせ：工藤寛之（TEL. 0467-31-3205）

### 高松で講演会

「国際交流と地球環境を考える講演会」（主催＝高松市日中友好協会、共催＝高松市国際交流協会、後援＝高松市教育委員会・四国経済連合会・香川経済同友会・高松商工会議所）が8月31日、高松市図書館で開催され、120名ほどの市民の参加がありました。

最初に緑の地球ネットワークの高見事務局長が、黄土高原の緑化協力について、スライドを使って紹介し、そのあと外務省国際情報局の下荒地修二参事官（前中国大使館公使）が中国の現状と日中関係の今後について話しました。その後、参加者との熱心な応答がつづきました。

前日の午後には、「どんぐり銀行」など高松の自然保護団体のメンバーとの交流会がもたれました。

### 京大ユニセフクラブから 古本市の収益を協力

使用済みテレカ回収への積極的な協力でもわかるように、学校でのボランティアへの関心は定着してきたようです。京大ユニセフクラブから、昨年につづいて、NGO訪問がありました。

毎年いろいろなNGOを訪ねて話を聞いているそうです。とても勉強になりそうないい企画ですね。そうして訪ねたNGOのいくつかに、春の古本市で得た収益を寄付して、GENにも6万円をおくってくれました。ありがとうございました。機会があったら、ぜひ黄土高原を訪ねてください。

## 緑の中国 歴史篇 7

上田 信（立教大学助教授）

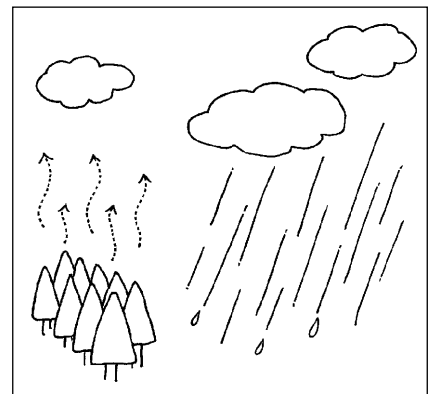
むかし、黄土高原に森林があったのかどうか。この問いは、黄土高原の緑化を試みている私たちには、重大な意味をもっています。もし、人間の手が加わる前にも森がなかったとすれば、そこを緑化する試みは、自然の理に反することになります。緑化することが、自然破壊になるのです。しかし、森があったのならば、大地が本来の姿に戻るのに手助けをすることは、森林を破壊した人類の義務ということになります。

紀元前700年くらいの周の時代、黄土高原の東南部、現在の山西省の南部に唐という国がありました。その国に歌われていた歌謡が、『詩経』に収められています。それを読むと「山にアキニレあり、沢にニレあり、……山に

ヌルデあり、沢にアハギあり、……山にウルシあり、沢にクリあり」などとさまざまな樹木の名前が詠み込まれています。また黄土高原の西南部には、秦という国がありました。その歌にも「山にはクヌギ、沢にはマユミ、……山にはスモモ、沢にはヤマナシ」と見えます。「山には、沢には」という表現は『詩経』によく見られるもので、あるべきところにふさわしいものがあるということを提示するものです。しかし、単なる決まり文句ではなく、こうした歌を謳いあげる人びとが見ていた景観に、こうした木々が茂っていたからこそ、人びとのイメージに働きかける力をもっていたと思います。

当時も、黄土高原に外から水分が補給されることは、あまりなかったでし

よう。しかし、黄土高原あるいは黄土高原の周辺に森林が存在していれば、森は降水の大半を大気に戻します。森から蒸発した水分が雲となり、再び雨として大地に降り注ぎ、森を育てました。森に支えられた水の循環が、黄土高原の樹木を育んだのではないのでしょうか。循環論法のようなのですが、森と雨をつなぐ一つのシステムが、そこに存在していたといえるのです。



## チコロナイ子どもキャンプ

8月8日から4日間、小学校6年生10人と、大人5人で子どもキャンプに行ってきました。北海道の自然やアイヌの文化にふれたり、新しい友達ができたり、いっぱい思い出ができました。



ヨモギでつくるアイヌ式トイレ

### 北海道に行ったこと

木村 敦志

(前略)1日目はテントで自分たちでトイレをつくったのがはじめてで、こんなのみられるやん、と思っていたけどつくりおわると全ぜん見えなかったからすごいなと思いました。夕食になって火をつけたりごはんをつくったりするのも全部ガスや電気がなくて不便だったけどやっているとおもしろくてこっちの方がガスとかつかうよりいいなと思いました。カレーをつくってどろどろになったけどおいしかったです。夜になってしかの足あととかを見たのも家の近くではみれないからよかったです。(中略)4日目おみやげをかうとき、ねぎって安く買いました。トマトやおかしやお茶をくれた店があったけどなにも買わなくて悪いと思いました。ほかにもトンボが手にすぐとまったりしておもしろかったです。茨木に帰ってきてトンボを手にのせようとしてもならないし、夜しかの足あとも見れなくてもっと北海道にいたかったなと思いました。もう1回いけたらいきたいです。

### 北海道に行つて

木太 なつき

(前略)2日目の朝、朝早くから起きて、みんなで近くのジャガイモ畑にいて、1人、1ふさジャガイモを自分の分をきめて、ほっていきました。1つのつる

に私は、41個、ジャガイモがついていました。すごいわくわりました。そして、そのジャガイモを、テント場にもって帰ってきて、みそしるを作ってその中へいっぱいジャガイモを入れました。とってもおいしかったです。そして(とうもろこし)も自分たちでかわをむいて、ゆがいて食べたりしました。そして山あるきに行きました。チコロナイが買った山は、とってもおっきかったし、色んな木々がいっぱいありました。そしてみんな1人1人自分の木をえらんで、木の名前と自分の名前をかけたものを、木にぶらさげて帰りました。(後略)



ポロチセのなかで

### 北海道へ行った感想

法澤 英治

ぼくはこの夏休みに北海道に行つてとてもよかったです。ほかの学校の人たちとなかよくなれて楽しかったです。みんなとすごした1日1日がとてもたのしく、ずっとこのまますごしたいと思う日でした。みんなでテントをたてたりごはんをつくったりあそんだり、いま住んでいるところではできないことばかりでした。木のぼりをしたときとてもむずかしかったけどすぐたのしかった。資料館の中はアイヌの人たちがつかっていた生活用具などさまざまなものがありました。ぼくはとてもきょうみをもちました。

その中で一番きょうみをもったのは、ことばでした。とてもかわってました。(後略)

### 楽しかった、アイヌでの旅行

松丸 荘子

(前略)ジャガイモほりにも行きました。朝、とれたてをたべると、すごく、おいしかったです。やっぱり、アイヌは自然がいっぱいあって、思っていたようなみどりにかこまれて、すごくいい所でした。けど、人の生活は私のそうぞうとちがいました。けど、それは、かえたんじゃなくて、ムリに日本人にかえられたって先生にきいたとき、すごく、日本人がイヤでした。それでも、アイヌの人たちは私たちにやさしくしてくれました。なんでやろうと思う気持ちよりも、うれしいなあ。と思う気持ちの方が強かったです。(後略)

### 二風谷での4日間がくれたもの

伊田 明美 (小学校教員)

(前略)行く前はどうなるのか不安がいっぱいで緊張しました。しかし案ずるより産むが安しとはこのことかと思うぐらい、私の心配や不安をよそに子どもたちはそれぞれに楽しみ、それぞれの感覚で過ごした4日間だったようです。(中略)

今回は子どもたちを連れていくという初めてのことで、子どもたちがどれだけアイヌにふれてくれるか、感じてくれるか、わざわざ二風谷に連れていく意味は、とか、多くの不安がありました。でも、大人と違う子どもが二風谷の自然のなかでそれなりに生活をすること、そこから感じるのがアイヌに結びついてよし、そうでなくてもよしという大きなとらえ方でいいのかもしれない。新しい出会いがいっぱいあって、ワクワクドキドキ心が揺れて、豊かな4日間が私たちにくれたもの。1人ひとりが違って、それぞれのなかで育っていくことと思います。数多くの出会いに感謝!!



# 思い出

## 第3回 二風谷 ワーキングツアー

12人が参加した8月16日から5日間の二風谷ワーキングツアー。まだまだたくさんの方の感想がありますが、続きは次号でご紹介します。

### アイヌモシリに触れて

吉田 尚之 (石川県)

(前略) ツアー後半では、アイヌの文化や伝統的な儀式に触れることができました。それら、チプサンケや博物館の展示品からはアイヌの人びとが本当に自然と共存しているのだ、ということがありありとうかがい知ることができました。内地の人びと、日本人には、これらのことにもっと触れてみてほしいと思います。そうすることにより、なにかを感じ、今回のチコロナイのような活動が広まり、自然が戻され、守られていくのだと思います。そしてなにより、アイヌの人びとの温かみなどに触れてほしいと思います。自分自身、今回のツアーでのいちばんの収穫はアイヌの人びとに直に触れることができたことだと思います。アイヌの人びとの行動そのものが私たちにどのように生きるべきか訴えているように思えました。いまいちど、自分の生活を見直してみるべきだと思います。

### 拝啓 萱野 茂様

岩下 智子 (大阪府)

私は今年のチプサンケに参加させていただいた者です。  
侵略者である和人の子孫のわれわれにも、アイヌの世界観に触れる機会を与えてくださったことに感謝します。マスコミと一般観光客が区別されることもなく、カムイノミをおこなう人びとのすぐそばに寄せてくださって、とても嬉しく思います。(中略)  
アイヌ資料館で観たビデオで、あなたにとっての日本語は和人との共通語だと知りました。親しくなりたい人を理解するためには、その母語を使って交流するのが一番ですが、半年前から学習しはじめたアイヌ語ではまだ意思

疎通がはかれません。いまは共通語である日本語しか使えませんが、いつかあなたや、アイヌ語を母語とする方がたと、アイヌ語でお話したいと思っています。

チプサンケのあとで  
舟遊びを楽しむ(右)  
原生林のなかで(下)



### ワーキングツアーに参加して

越智 誠一 (大阪府)

今回二風谷ワーキングツアーに参加した。私個人の目的は、アイヌの伝統儀式チプサンケを実際に見て体験することだったので、その視点から感想を述べたいと思う。新聞等で報道されたのでごぞんじだと思うが、今年のチプサンケはダム問題とからんで実施が危ぶまれていたものの、今回に限りダムの水を抜くという処置の下、従来どおりにおこなわれた。縁結びの石前でのカムイノミ、ポロチセ内でのカムイノミを間近で見学できるとは思ってもみなかったのが、書物やビデオで得た情報どおりにおこなわれるさまをじっくり観察できた。アイヌではない観光客にもトゥキとイクパスイが順に手渡され、またポロチセにいる人びとに昼食をもてなしてくださったことに、すべての人をもてなすというアイヌの習慣

を実感した。(中略)最後に、河原での舟乗りを撮影していると、背後には辺りの景色に似合わないコンクリートの巨大な塊がはいること。チプサンケが来年も同じ場所で開催できることを願うが、ダムが存在する限り、灰色の塊を背に泥沼のなかでの儀式がつづくのであろうか。

### チコロナイ学習会のご案内

#### 第17回

日時：9月28日(土) 16時～18時

場所：GEN事務所

参加費：100円

内容：夏のチコロナイ子どもキャンプとワーキングツアーの報告、秋のアイヌ料理第2弾の計画立案。

#### 第18回予告

日時：10月20日(日) 午後(予定)

場所：未定

内容：青木悦子さん『自分史を語る』(関東で活動しているアイヌ民族、ペウレウタリの会会員)

問合せ：武田繁典 (TEL./FAX. 06-704-7720)

### チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～ 第2期第1回

日時：10月20日(日) 13時～15時

場所：GEN事務所 (JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ。TEL. 06-583-1719)

資料代：第2期(6回)分で2000円

問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)

前号で第2期開始を9月28日と予告しましたが、都合により9月はお休みにさせていただきます。

第1期からの人も、初めての人もどうぞ。1回だけの飛び入りも歓迎。なお、平常は毎月第4土曜14時～16時です。

# 写真で見る 夏の黄土高原ワーキングツアー

総勢23名が参加して7月25日から8月4日（A班は8月1日）の日程でおこなわれた96年夏の黄土高原ワーキングツアー。今回はビデオと日誌からご紹介しましょう。

「途中の山や山の迫力よりも、その先に住んでいる人びとがいることに驚いた。そして、子どもたちが、やっぱりかわいい。照れ屋さんが多いが、特に男の子の目には、力強さがある。」（高橋泰彦記） - 霊丘県喬庄村では、子どもたちの大歓迎を受け、小学校付属果樹園に記念植樹をしてきました。



地球環境林センター見学。（上）  
唐河を渡っていく霊丘県上北泉村は、果樹の栽培に実績があります。（右3枚）  
「桃畑で15分間の作業。少し短いと思ったけど、スケジュール上、仕方ないですね。その後、記念碑の除幕式を終え、村の書記さんのおうちで昼食を食べる。」（木村真美子記）



農家での食事は、いつも心づくしのごちそう。まだこのうえにお皿が次つぎ重ねられます。

## アンケート中間報告

前回お送りしましたアンケートにご協力いただいた方、ありがとうございました。現在74通の回答をいただいています。ちょっと少なくてさびしいので、「あっ、忘れてた！」という方、いまからでもご回答お待ちしております。

回答内容を簡単にお知らせします。

【法人化に関して】（有効回答数...72）  
賛成...31、現行制度で賛成...3、新制度で賛成...7、反対...2、どちらでもよい...23、わからない（回答不能）...6

【ワーキングツアーについて】（有効回答数...72）  
参加したい...43、参加したいができてそうにない...24、考えていない...5  
【『参加したい』の内訳】（複数回答可）

近いうちに...11、いつか...25  
黄土高原...26（春...10、夏...10、秋...9）  
二風谷...19（春...8、夏...13、秋...5）  
みなさんのご意見から - 抜粋 -  
生態系の話などおもしろいよ。沙漠が緑地になる過程も興味津々。  
はやく緑地になってほしいですね。  
大同にある緑色地球ネットワークの活動状況をもっと取り扱ってほしいし、また参加している祁学峰所長やその他のメンバーの人たちの声や夢とか、日ごろ感じたことを記事にしてほしいです。  
今後増やしたい記事のひとつです。  
関東ランチの始動に感激。九州ランチを目指そう。  
九州のみなさん、いかがですか。  
ページ数をもっと増やして、より読

みごたえのあるものにしてほしい。  
増頁はムリですが、読みごたえは追求します。  
黄土高原と二風谷しかあつっていないようですが、他の場所はとりあげないのでしょうか。  
他団体などとりあげたいのですが...  
チコロナイの活動にも、緩慢ながら息長く協力していこうと思っています。よろしく願います。  
会報は隔月化してもよい。その分内容を充実すること。保存にたえる体裁にしてほしい。  
ご指摘、ありがとうございます。  
黄土高原などの現況だけでなく、幅広い情報（自然の考え方など）を載せてもらっているのも勉強になります。そういう記事も、増やしたいです。



道が悪く、バスが通れないというので、なんとトラックの荷台に.....。

「石をみんなで運んだが、動かない。その後、バスは、ゆれる、ゆれる。...帰りは、石炭のトラック。妙に楽しい。何故だろう。わからない、わからない、でも楽しい。」(高橋泰彦記)



道路工事も、WTの仕事？ 参加者が持参したスコップが大活躍。



## 世界の森林と日本の森林 (その3)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

### 日本の森林の特徴

世界の先進国のなかでは抜群に森林の多い国である。国土の3分の2は山岳地帯であり、裸の山はない。昔の日本の国土は世界有数の多くの樹種をもつ原生林で覆われていた。高木の種類数が600種というのは驚異的な数字である。ドイツ固有の樹木の数が20種であるのに比べるとその多さがわかるだろう。

なぜこんなに多くの樹種が存在するか？ それは絶対的な夏の雨の多さにある。日本全土は年間1000ミリ以上雨が降り、月100ミリ以下になるのは冬のあいだだけである。フランスやイタリアなどヨーロッパの南部は1年をつうじて雨がきわめて少ない(図)。

冬のあいだは温度が低いいため、土壌

の水分はあまり蒸発しない。そして、植物は5 以下では成長せず、休眠状態になるから葉面蒸発もきわめて少ない。だから、冬の降水量よりも問題は夏の降水量が森林発達の決め手になる。そして単純な種類だけの森林ではなく、樹種の多い多層構造の森林になるには、暖かさとともにこの降水量がものをいうのである。

### 社寺林を訪ねよう

この豊富な日本の原生林は、縄文、弥生を経て農耕地として伐採、開墾され、江戸時代の末期にはもう現在とあまり変わらない程に消滅した。日本の国土面積の3分の1ほどの平地にあった照葉樹林が、壊滅状態になったにもかかわらず、昔の樹種は絶滅せず、どこい生き残っていたのである。それは全国各地の社寺林である。とくに神社の森、鎮守の森にその姿が見られるのである。山の好きな方がよく利用される5万分の1の地図は下辺が20kmだが、この地図1枚に100以上の神社と寺のマークがある。これはおそろべき密度である。ここにはスダジイ、コジイ、アラカシ、ウラジロカシ、イチイガシ、マテバシイ、シリブカガシ、アカガシ、ツクバネガシなどのドングリ類、クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、カゴノキなどのクスノキ類、モチノキ、クロガネモチ、ナナミノキ、ソヨゴ、タラヨウなどのモチノキ類、などの常緑樹がどこの社寺林にも必ず

といてよいほど繁茂している。どんな小さな神社でも1本も樹木のない場所はない。必ず日本の樹木が何本かは生えている。

不思議なことに日本の理科の教科書に小学校から大学まで、このような日本固有の森林の樹種を詳しく紹介していない。アサガオやチューリップやヒマワリなど外国産の植物ばかりが目立つ。これは少しおかしいのではないか。日本はヨーロッパにない複雑多様な樹種をもつ森林がある唯一の国なのである。「ドングリころころドングリ」は幼稚園の歌ではなかったのか！

## 沙漠化地域の生活と環境

### 黄土高原緑化協力の現地にもみる

GENの緑化協力地、大同周辺の実状をふまえて、環境破壊と生活の貧困の悪循環、それを断ち切る方策などを、ワーキングツアーで現地を見てこられた小川房人さん、榎田勲さんを中心に考察・討論してみたいと思います。

日時：9月24日(火) 18時30分～

場所：大阪市立弁天町市民学習センター (ORC200ビル7階。JR環状線「弁天町」駅北出口・地下鉄中央線同駅2A出口から直通通路あり)

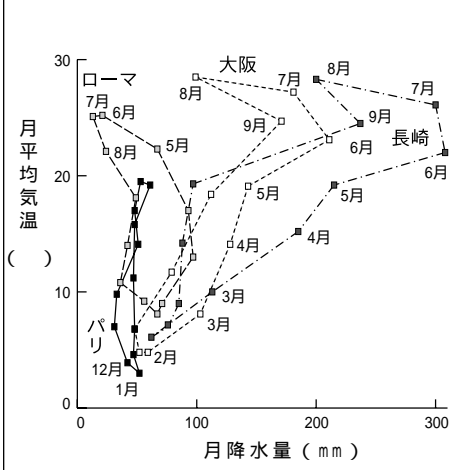
講師：小川房人さん(大阪市立大学名誉教授)

榎田勲さん(京都精華大学教員)

参加費：700円

問合せ：GEN事務所まで (TEL. 06-583-1719 FAX. 06-583-1739)

クリモグラフによる日本とヨーロッパとの気候の比較





## 黄土高原・祝祭 日本初公演

94年の春、ワーキングツアーが訪れた広霊県で“鑼鼓”を披露してもらい、その迫力には寒さも忘れて大感激したものでした。

今回、山西省のお隣の陝西省榆林地区から、文芸工作団が来日して“腰鼓”や古典劇“秦腔”の公演がおこなわれます。ツアー参加者が感激した、黄土高原の村々で農民が楽しむのと同じ芸能を、日本で味わえます。

日時：10月30日（水）19時～（開場18時30分）

場所：高槻現代劇場中ホール（阪急「高槻市」駅南へ徒歩5分）

入場料：前売2000円、当日2500円

主催：黄土高原文化交流協会

### イベント『黄土高原の食』

日時：9月14日（土）14時～

場所：大阪ガスDILIPA（万博公園内）

講師：石毛直道氏（国立民族学博物館教授）

参加費：2000円（押し出し麺、あわ粥試食つき）

下記あて参加申し込み要。

黄土高原文化交流協会・戸村さん（TEL. 078-271-0461）

前号で掲載した黄土高原文化交流協会の電話番号がまちがっていました。ここにお詫びいたします。

## ワン・ワールド・フェスティバル

今年も、ワン・ワールド・フェスティバルの季節がやってきました。コンサートやトーク「国際交流団体へのアクセス」、スタディ・ツアー報告会などさまざまなイベントや展示がおこなわれ、GENもNGOテントで参加します。国際協力について知りたい、という方、気軽にのぞいてみてください。

日時：10月20日（日）10時～16時

場所：花博記念公園鶴見緑地（地下鉄鶴見緑地線鶴見緑地駅下車）

雨天決行

問合せ：関西国際交流団体協議会

TEL. 06-773-0256

## リバティ文化フォーラム 先住民族の人権と博物館

日時：9月14日（土）13時30分～16時（13時より受け付け開始）

場所：大阪人権博物館（リバティおおさか）団体ガイド室

定員：80人（当日先着順）

『先住民族と博物館』

グロリア・克蘭マー・ウェブスター氏（カナダ・ウミスタ文化センター元館長）

『アイヌ語とアイヌ文化の今日』

萱野茂氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館館長・参議院議員）

参加費：大人1000円、高大生800円、小中生/65才以上の人/障害をもつ人と介護者500円（すべて入館料込み）

主催：大阪人権博物館（TEL. 06-561-5891）

## アジアフェス '96

9月15日から10月25日までの期間、大阪国際交流センター、大阪21世紀協会、大阪府国際交流財団の主催でアジアフェス'96が開かれています。もりだくさんの催しのなかから、いくつかご紹介いたします。

韓国映画祭

日程：9月15日（日）～22日（日）

韓国伝統芸能創作マダン劇「チュンヒャン伝」

日時：9月22日（日）15時

ベトナム音楽キム・シン＆ベトナム・パンブー・アンサンプル

日時：9月27日（金）18時30分～

台湾人形芝居布袋戯（ポーターヒー）

日時：10月6日（日）14時～

インドネシア舞踊サルドノ・ダンス・シアター「ゴングの響きの彼方より」

日時：10月13日（日）14時～

上記の会場は大阪国際交流センター。入場有料。その他、写真展、アジアアピッコ画伯展など。詳しいお問い合わせは：大阪国際交流センター事業広報課（TEL. 06-773-8182）まで。

## IMAGINE 21プロデュース 再会

中国公演（1995.9）帰国報告公演

中国からの1枚の写真 / 死んだはずの妻 / 捨ててきた過去との再会 / 私にとって / 戦後とは何だったのか...

日時：10月29日（火）開演18時30分  
開場18時

場所：森ノ宮ピロティホール（TEL. 06-944-1151）

チケット：一般 4,000円 中・高生 3,000円（当日500円増）

問い合わせ：TEL. 06-385-4337 豊川さん（夜間のみ）

プロデュース：IMAGINE21（TEL. 0423-83-3667）

### 世話人会だより

最近の主な議題は、総会にむけての会則改正です。次回の世話人会は、9月27日（金）18時30分から。世話人会は、公開されています。傍聴歓迎！

## 地球環境講演会 港区環境・食品おもしろ大学公開講座

講師：高木善之氏（ネットワーク「地球村」代表）

内容：環境と経済

日時：10月9日（水）13時30分～16時

場所：港区民センター（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩5分）

参加費：無料

主催：港保健所

問い合わせ：港保健所環境課（TEL. 06-571-1425）

06-571-1425）

港保健所では港区環境・食品おもしろ大学公開講座受講生を募集しています。当講演会もその一環で、その他実験しながらゴミ問題を学ぶ、盲導犬の訓練を見学しながら学ぶ、食品衛生について学ぶ、など多彩なメニュー。お問い合わせは上記港保健所、今西さんか松岡さんまで。